一級建築士はゴールではなくスタート

取得した資格：一級建築士
資格取得年度：令和３年度
川端　慎司＊（かわばた　しんじ）

1. 受験の動機・経緯

私は令和元年度に初めて一級建築士試験に挑戦し、３回目の令和３年度に合格することができました。

建築職は職務上、一級建築士と建築基準適合判定資格を取得する必要があるため、早めの資格取得を勧められていましたが、当初は、特に必要性を感じていなかったため勉強量が不足して、不合格が続きました。

しかし、日々の業務において、資格を持つ建築士との打ち合わせで生じる、自身の能力不足や知識不足、また周りの建築職のほとんどが一級建築士を持っていること、建築職以外の人から「一級建築士もっているの？」と聞かれることが増えるなど、小さなプレッシャーがいくつも積み重なり、受験に対して本気で向き合うようになりました。

ここでは、私が実施していた試験の対策方法等について書かせていただきたいと思います。勉強方法については、人により向き不向きがあるため、あくまでも一例として読んでいただき、少しでも参考になる箇所があれば幸いです。

2. 学科試験の対策（一次試験）

学科試験は、計画・環境設備・法規・構造・施工と、範囲が膨大であり、多くの知識を頭の中にインプットしていく必要があります。

私は机に向かって、教科書や問題集を使って勉強するということが苦手だったため、初めはスマホアプリの問題集やWebの解説動画などを中心に勉強しました。場所にとらわれずにゲーム感覚で勉強することができるため、通勤中や昼休み中などの隙間時間を利用して継続して勉強を進めることができたと思います。

もちろん試験直前になると、机に向かってひたすら問題を解き続けることになっていましたが、まず「勉強をする習慣をつくる」ためには有効だったと思います。

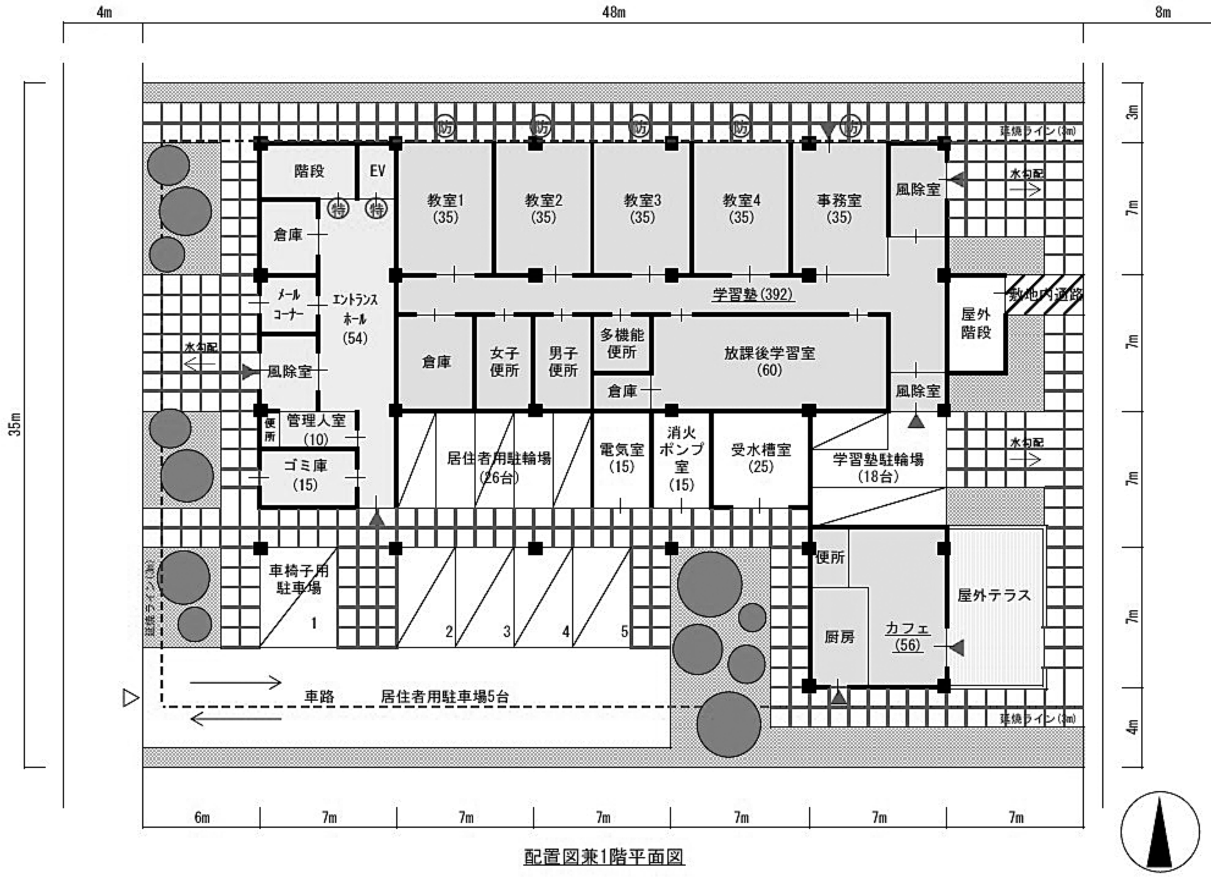
3. 製図試験の対策（二次試験）

製図試験は６時間半の試験時間の中で、設計課題を読み取り、手書きで図面と記述を作成します。試験時間中に休憩はなく、ぶっ通しですが、やっている本人にとっては時間があっという間に過ぎます。

この試験は未完成であれば即失格、完成していれば採点されるため合格する望みがあります。そのため、試験勉強に取り組む際は、時間管理を徹底的に行いました。具体的には、おおむね次のような時間配分で繰り返し取り組みました。【①課題文読み取り（0.5h）→②エスキス（1.5h）→③記述課題（１h）→④作図課題（３h）→⑤見直し（0.5h）　計6.5h】

時間に対してシビアに管理したこともあり、試験当日も慌てることなく予定通り進めることができました。

＊福井県 土木部 建築住宅課 住宅計画グループ 主事



製図試験復元図（配置図・平面図のみ抜粋）

4. 試験に臨む心構え

試験に臨むに当たって、私はとある方からのアドバイスを大切にしていました。それは、「試験の問題で迷ったときは、自分が建築士ならどう選択するのがベストなのかを自分に問いかけて判断すればいい。」ということです。建築士は自分の理念を持ち与えられた課題を解決していく必要があります。誰かが言ったからではなく、自分の中でしっかり落とし込んで判断しなければいけません。

また、資格予備校の先生からは、製図試験でエスキスが固まってから作図に進むようにと繰り返し指導を受けましたが、私はそれには従わず、常に自分の時間管理どおりに進める練習をしていました。実際に本試験でもエスキスが中途半端な状態で作図に進みましたが、結果合格することができました。

先生の言うことがすべて正しいわけではありません。大切なのは、自分に合っているやり方をを考えて、実践しながら試験対策を進めて行く必要があると思います。

5. おわりに

一級建築士の資格取得はゴールではなく、ここからスタートだと思います。特に、建築基準適合判定資格や住宅性能評価員の受験資格は、一級建築士を取得していることが条件となります。

一級建築士を取得したからと満足せず、自分のスキルアップ、レベルアップに今後つなげていく必要があると思っています。

最後になりますが、職場の方を含めて様々な方々に、資格取得のために多大なご理解・ご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

【著者紹介】 川端　慎司（かわばた　しんじ）
平成29年福井県入庁（建築職）。小浜土木事務所、丹南土木事務所を経て現職。建築確認審査、長期優良住宅法、社会資本整備総合交付金等の職務に従事。